

くししろかひめじんじゃほんでん 櫛代賀姫神社本殿

1. 建物の概要

所在地	益田市久城町
所有者	宗教法人櫛代賀姫神社
建築年代	明和2（1765）年
登録年	平成25（2013）年
構造等	木造平屋建・銅板葺
	建築面積 22㎡



【櫛代賀姫神社本殿】

2. 沿革

大同元（806）年に鎌手大浜浦から現在地に遷座したと伝わる。

天正12（1584）年には、益田氏によって社殿の再建がなされた。

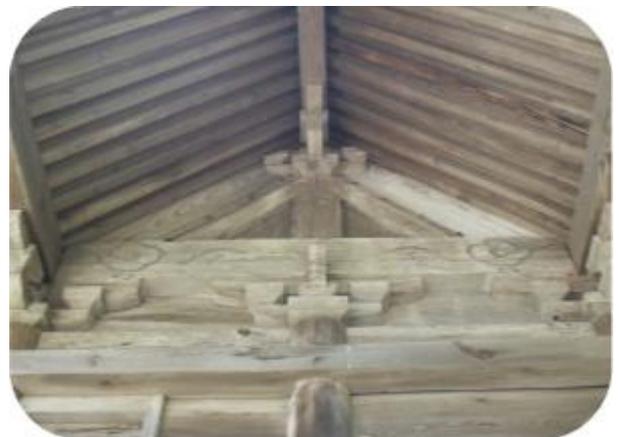
延喜式神名帳に所載の式内社として広く崇敬を集めてきた古社である。

3. 建物の特徴

櫛代賀姫神社には15枚の棟札^{むなふだ}が残されており、その最も古いものが明和2（1765）年であることや、虹梁^{こうりょう}に施された彫刻や正面中備^{なかぞなえ}に備えられた臺股^{かえるまた}などに江戸中期の建築の特徴が垣間見えることから、本殿の建築年代が推定される。

屋根形式は三間社流造^{さんげんしゃながれづくり}、鳥衾^{とりぶすま}を付した箱棟を載せる銅板葺である。当初は檜皮葺^{ひわだぶき}か柿葺^{こけらぶき}であったと思われるが、文政7（1824）年の棟札に見える「奉修復銅瓦本殿葺替」が示すように今は銅板で屋根が葺かれている。

軸組^{じくぐみ}は円柱を下から地長押^{じながし}、腰長押^{こしながし}、内法長押^{うちのりながし}、頭貫^{かしらぬき}で固め、柱上組物は平三斗組^{ひらみつとぐみ}、軒^{のき}は猪目懸魚^{いのめげぎよ}を付した二軒繁垂木^{ふたのきしげたるき}、妻飾^{つまかざり}は虹梁^{さす}、叉首組^{さす}、平三斗組物の組み合わせとなっています。後年の修理による部材の更新も目立つが、軸組の円柱、虹梁、叉首などの主要部分は創建時の部材が残っている。



【虹梁の渦と若葉の彫刻が時代の特色を表す】